

第23回日本婦人科がん検診学会 総会・学術集会開催のご案内



謹啓

時下、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

このたび、第23回日本婦人科がん検診学会総会・学術集会を、平成26年11月22日(土)、23日(日)の2日間にわたり、ホテル阪急インターナショナルおよび大阪市中央公会堂で開催させて頂くことになりました。

日本婦人科がん検診学会(Japanese Society of Gynecological Cancer Screening)は、婦人科領域における悪性腫瘍の早期発見のための、検診にかかわる諸事項を研究し、がんの死亡率低下を図ることを目的とする学術団体です。毎年開催される学術集会は、本会の重要な学会活動として重視されており、例年、医療機関、検診機関、行政などの多岐にわたる分野から多くの医師会員や研究者が参加されております。

本学術集会では、「子宮頸がんの予防と診断 up to date」をテーマとして掲げさせて頂きました。子宮頸がんほど、ワクチン(一次予防)と検診(二次予防)の重要性・有効性が確立されているがんは他にありません。一方で、ワクチンや検診は公的事業に深く関わっており、医療だけではなく行政との関連や個人と集団の便益と弊害を考慮する幅広い医学研究が必要です。

11月22日(土)はホテル阪急インターナショナルでサテライトセミナーを行います。一流講師陣をお招きし、子宮頸部病理・コルポスコーピーならびに液状細胞診に関する教育的レクチャーを提供致します。各サテライトセミナーは事前登録制になっております。平成26年9月1日(月)よりweb受付(日本婦人科がん検診学会ホームページ<http://jagcs.org/>をご参照下さい)を開始しておりますので、ふるってご参加をお願いいたします。

11月23日(日)は大阪市中央公会堂で総会・学術集会を開催致します。特別講演として、自治医科大学附属さいたま医療センター産婦人科の今野良先生に「子宮頸がん検診と予防ワクチン」をお願いしております。また、ランチョンセミナーとして、我が国のHPV研究の第一人者である東京大学産婦人科の川名敬先生に「HPVワクチンのベネフィットとリスクを見直そう〜どのように説明されていますか?」をお願いしました。その他、会長講演、シンポジウム、ワークショップを予定しております。子宮頸がんの予防と診断に関する現状把握と今後の展望につきまして、子宮頸がん予防HPVワクチンの普及・啓発、子宮頸がん検診受診率向上への取組み、子宮頸部細胞診の精度管理に焦点を当て、各方面からの演者による充実した議論を行いたいと考えています。

大阪市中央公会堂は、大阪が世界に誇る歴史的建造物で、重要文化財に指定されております。この機会に内部の調度品や絵画を是非ご覧頂きたいと存じます。また、学会の間には秋色の美しい大阪中之島周辺を散策頂くのもまた一興かと思えます。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

末筆ではございますが、皆様のますますのご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

謹白

2014年9月吉日

第23回日本婦人科がん検診学会総会・学術集会

会長 植田政嗣

(大阪がん循環器病予防センター 婦人科検診部 部長)

